

きびしい緊張感のあるみかしほ学園  
自ら学ぶ力と、学ぶことを喜ぶ学生  
清潔な美しい環境、他者を敬愛する心  
大きな希望と先見性のある学生  
実践する力と根気強さのある学生

# みかしほ

MIKASUHO GAKUEN

2010/9 No.554

学校法人みかしほ学園  
みかしほ学園  
学校法人みかしほ学園  
姫路市東延末2-165  
TEL(079)288-2600

定価 150 円

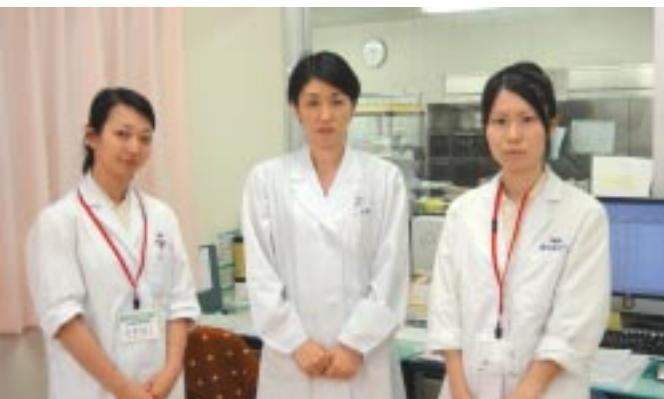
# みかしほ祭

とき：11月21日(日曜日)

ところ： みかしほ学園 1号館・5号館  
(日本調理製菓専門学校)

から構想を立て、自分が納得できるものに仕上げましょ。期日が迫つてくると焦りが出てくるのです。余裕のある計画が必要です。皆さんがんばって「みかしほ祭」を成功させましょう。

田頃の学習の成果を発表する  
絶好の機会。「みかしほ祭」は、  
11月21日に開催されます。その  
中心となるのは、創作料理・創  
作菓子展示です。展示する作品  
は卒業規定単位のひとつです。  
作品制作に困らないように早く



研修中の阿賀さん(左)と富永さん(右)

栄養士科2年生は、夏季休暇中に、給食管理実習の一環としての学外実習に出でておきます。実習期間中は、はじめての環境に「緊張」と「驚き」の連続です。しかし、また「喜び」も生まれます。これまでにない貴重な経験をしています。そして何よりも、みんな「一生懸命」に頑張っています。暑い中ですが、意欲的に、一つでも多くのことを学んできて下さい。

## ただ今 学外実習中

## 就職活動は

日本調理製菓専門学校

ターの増加が大きな問題になっています。また、そこから抜け出し、定職に就こうとするのですが、なかなか仕事を見つけることができません。先日、そのような人達の姿を見るテレビ番組が映し出しています。その番組を見て思った事は、まず、学校を卒業して社会に出る時にしつかりとした仕

事を持つということです。また、知識や技術・教養・マナーを身につけておかなくてはならないということです。でないと、取り返しのつかない事になります。何年間も定職に就かずにダラダラとしていては、それから頑張ろうと思つても、チャンスが与えられないのでです。皆さんの年齢はさまざまですが、同じスタートラインに立つ学生です。卒業時に社会人として活躍するためには、今、真剣に就職活動に

	9月からの予定
取り組んでおかないと一生後悔する事になります。今、この一年、二年が一生を決めると言つても過言ではないのです、頑張つて下さい。	9月28～30日 栄養三者懇談
	11月21日 みかしほグルメ

に学校へ来て練習をしていました。学生もいました。特に実技の場合には毎日の練習が必要です。私が学生の時、陸上部で毎日走つておりました。ところが試合前日は軽く歩くだけで、全然走りません。そうしないと脚が痛くて本番の時に走れないからです。

がいえると思います。ペーパー試験のようにはいかないのです。たとえば日本料理の桂むきひとつとっても毎日大根を一本ずつ練習したものと、試験の一週間前に大根二本ずつ練習するのとでは、毎日一本ずつ練習した方がうまく桂むけできますし、毎日包丁を持つて料理を作っている者とたまにしか持たない者とでも差が出てきます。放課後も家で少しうつ練習を積み重ねて技術は体得していくのです。

# 目が合えば 笑顔でおはよーじにちは

「はたらく」と「いじ」と

みかしほ学園では、「挨拶の励行」を掲げていますが、やはり難しいものです。そこで、神戸新聞の「隨想」に挨拶についての一文が掲載されていましたので、紹介します。ぜひ一読して下さい。

日本の博物館としては珍しい施設を利用して、他の企業博物館や他社の人事担当者から、コンパニオンや女子社員の研修を依頼されることが多い。

その施設とは、接客研修のための設備。約八十平方メートルの小部屋だが、壁は一面、鏡張り、床は木製フローリング。あたかも工アロビクス訓練室かと見まがうほどのもの。

短期研修は、姿勢、発生発音、歩き方、身のこなし、敬語などの基本を。長期のものは、「コーヒー実習も含め、応用動作まで。

いずれの場合も、事前に「挨拶」について説明する。研修の目的は、とりあえず「挨拶」を完璧に行うことだが、接客の第一歩と教えている。

そこで「挨拶ができますか」「こ

れからは、努めて挨拶しますか」と問うと、全員がうなずくので、

先手必勝。客から先に挨拶される練次第。

あいさつの「さ」は、人より先に

「挨拶」についてよもやま話をす

る。

挨拶は、人の心を開く大切な要素であることを、失敗例をあげて説明している。

つづいて「挨拶」の仕方について基本的に必ず実行されなければならぬことを述べる。

あいさつの「あ」は、明るい大き

な声をだすこと。これがなかなかできないのだ。オクターブをあげて、腹からの声をだすため、かなり練習を要する。しかしそくに上達するだらう。

あいさつの「い」は、いつも笑顔である。明るい人は、笑顔が自然とできるが、暗い人は、努力を要する。つねに、心を豊かに楽しくしないといふにもならないもの。訓

と落第。顔をあわせたら直ちに、

客より先に挨拶すること。本人の

強い意志をともなう。

あいさつの「つ」は、つづけて添える。これが一番難しい。挨拶に、田を添え、笑顔を添え、心を添え、言葉を添え、おじぎを添えるのだ。これは簡単に実行できな

い。場数を踏むのみ。

「挨拶は簡単、すぐできます」と

いつた人達が、このあたりから悩みだす。人間関係の潤滑油として働く「あいさつ」は難しい。

神戸新聞より引用

中から貪欲、中傷、虚榮、労苦など

の諸悪が飛び出してきた。あわてて蓋を閉めたところ希望が箱の中

に残ったという話がある。

その諸悪の一つである労苦は苦

心、骨折りという意味を持ち、日本

語で対応する言葉として「労働」が

当てられるが、この熟語は比較的

新しく、伝統的な物は「仕事」では

ないかと思う。

日本は農耕社会であつて、畠を時

き、苗を育て、田植えをし、施肥を行ひ、除草をし、その生育を助け、

収穫する。これは農民の仕事であつて、日々稻の生育を自分の目

で確かめ、自己の努力が報われる

過程を楽しむことができる。これら

の農民の努力は嘗みそのもので、衣食住を含む生活の一部をなすものである。

ギリシャ神話によると、パンドーラ

が主神ゼウスからもらつた禁断の

箱（壺ともいう）を開けると、その

相異は、欧米からの日本人の働きす

ぎ非難に結びつくとともに、東西両

社会に人生における「労働」の位置づけに大いにかかわっている。

登山家として高名な初代南極越冬隊隊長の西堀栄三郎博士が「山に登る場合、登山家とシェルパは同じくらいの重量の荷物を背負うが、その取り組み方や気持ちの持ち方において圧倒的な差異がある。



登山家は登頂という希望を達成するために（いわば楽しみのために）、シェルパは一種の義務として登るという意識が大きい」ということを言わされたことがあった。

私の人生において「はたらく」という行為は、登山家の登山にあたるのか。シェルパの義務の履行にして、そして人生そのものについて考えさせられるのである。

神戸新聞「隨想」より